

# A New Form of *Deinanthem bifida* Maxim.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00065698">http://hdl.handle.net/2297/00065698</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



た。以上の地域は大部分が阿寺山塊で一部は御嶽山麓に及び、行政区劃の上では長野県西筑摩郡の王滝村，上松（アゲマツ）町，大桑村，読書（ヨミカキ）村に亘り，岐阜県側では益田郡下呂（ゲロ）町，加子母（カシモ）村を含んでいる。

上記の限界を水平的にみれば東は殿小川の上流，北は三浦ダム北部の本谷，土浦沢，西はこのダムの西部から鞍掛峠附近，南は柿其川上流である。又垂直的には鮫川と小中尾沢での950m辺が低い方であり，土浦沢上流の1450m辺，中立峠（略1450m），真弓峠（1479m）は高い方である。阿寺川上流では1700m 辺までも見られるがその辺での生育は貧弱である。以上の事から本種は950mから1700mにかけて分布し，近似のモミジイチゴ（キイチゴ）よりも高地に産するものと見られる。又今後の調査による分布域の拡大も，図示したものの大幅の改訂はないと自負している。本種は深山のサワラ林又は北向の斜面で日照が10～30%と思われるような土地，即ち少々水分に富む中性土壤で日当りの余り良くない場所において生育がよいようである。木曾谷のこのような所にはハスノハイチゴ，ミヤマモミジイチゴ，オオバメギ，オオヤマレンゲ，アカミノイヌツゲ等が勢よく育っている。

中井博士と小泉秀雄氏はこれを種とされ，大井博士は日本植物誌の中でモミジイチゴの変種とされたが，モミジイチゴとは上述のように種々の点で差異が認められる。然し両種分布の接触地にはモミジイチゴとの間種と見られるような形を見ることもある。外部形態による識別のむずかしいキイチゴ属であるから，他の研究分野例えば細胞学的研究と併せて検討することが望ましいと思う。

この稿に関しては東京都立大学牧野標本館の水島正美氏に色々御援助をいただいた。附記して深く感謝の意を表する。

○ マルバギンバイソウ（里見信生）N. Satomi: A New Form of *Deinanthë bifida* Maxim.

徳島県名西郡上分上山村に神領の滝と称する滝がある。私は今夏こゝを訪ねる機会を得たが，滝附近で採集したギンバイソウを見るとその葉は楕円形で，通常のものゝように先端が二裂することがないばかりでなくその先端は浅く三裂して尖っている。そこで帰途この点を注意しつつ来たが，此所ではギンバイソウはあまり多く見受けられない。然し他にも数カ所生育しているのを見出し，それ等の株を精検したところ，いずれも最初私が採集したものと同型のものであった。この辺にはこんな型のもののみが分布しているようであるけれども，どんな範囲にこういった型が存在しているのかどうかは単に通り返ぎただけの旅行者である私にとつてはわからない。

*Deinanthë bifida* Maxim. form. *rotundifolia* Satomi form. nov.

A typo recedit folia rotundata apice tricuspis.

Nom, Jap. Maruba-ginbaisô (nom. nov.)—Hab. Shikoku, Prov. Awa: Kamibun-kamiyama-mura (N. Satomi, Aug. 16, 1958—Typus in Herb. Fac. Sci. Univ. Kanazawa)